

# 令和8年度 京極町立京極小学校 学校経営方針

京極町の目指す子ども像(京極町教育行政執行方針)  
ふるさと京極の未来を思い、語れる子

## 1. 学校教育目標 〔全体目標〕

### ◎進んで心と体をきたえる子の育成

学校教育目標	目指す子ども像
【知】自ら考え 努力する子	自分で考え、表現し合って高め合う子
【徳】思いやりを持ち 協力する子	おたがいに認め合って協力できる子
【体】体をきたえ 行動する子	自分の体力に興味を持ち、高めようと取り組む子

## 2. 目指す学校像

誇れる学校

- 子どもたちが、よさを認められ、居心地がよく、安心して自信を持って活動できる学校
- 保護者(地域)が、愛情を持ち親身になって子どもに接してくれ、子どものよさを引き出し、伸ばしてくれる学校
- 教職員が、働く喜びと自己が高まる喜びがある学校

## 3. 経営・運営の基本方針(いつも心にとめておきたいこと)

- ◇子供中心・子供重視(子供の安心・安全)
- ◇授業が生命線～より良い授業を目指して・求められる授業のあり方～授業改善
- ◇組織的な運営・組織的な教育～全校的な取組を深化
- ◇特別支援教育の視点での支援・指導
- ◇親身な保護者対応
- ◇学校・教職員の望ましい社会性

## 4. 育てたい資質や能力

「育てたい資質・能力」の重点を設定する。「育てたい資質・能力」は、現在の学校教育の大きな目標である。教育活動の全てがこの資質・能力の向上につながるよう整えていく。全教育課程において、これらの資質や能力の向上とのつながりを位置づけ、明確化して取り組んでいきたい。

	「育てたい資質・能力」の重点
知識・技能	○文章をスムーズに読み、理解することができる。＜読む＞ ○わかったことをまとめて伝わりやすく書くことができる。＜書く＞ ○ICT機器の自分に合った使い方に気づき、活用場面を広げることができる。
思考力・判断力・表現力	○順序よくわかりやすく説明することができる。＜説明する＞ ○自分の考えを持ち、友達の考えを受け入れながら学習することができる。＜学び合う＞ ○ICT機器を状況に合わせて適切に使うことができる。

学びに向かう力・人間性 その他習慣	○「得意」「不得意」が互いに異なることを理解し合い協力することができる。<苦手を理解し合い、できることを増やす> ○発達段階に応じた家庭学習ができる。<家庭学習> ○落ち着いた <u>心のこもった</u> あいさつができる。<あいさつ> ○自分の健康や体力について知り、改善や向上に取り組もうとすることができる。<体力向上に挑戦>
----------------------	--

## 5. 経営・運営の重点(力を入れて充実・向上させたいこと)

【育てたい資質や能力】を育てるために、これらの重点を設定する。

- |   |
|---|
| (1) 温かい学校・温かい学級づくり～ <u>通いたいと思える学校</u><br>(2) <u>教科の指導と生徒指導の一体化</u> ～ <u>安心して学び、安心して過ごす</u><br>(3) 具体目標の達成に向けた各部の主体的な取組による、教師力・組織力の向上<br>(4) ICTの活用推進～個別最適な学び、協働的な学び～まずやってみる⇒改善<br>(5) 「 <u>京極町児童生徒の英語力向上推進計画</u> 」に基づく <u>外国語教育の取組</u><br>(6) PDCAサイクルの確立とカリキュラムマネジメント<br>(7) 異校種・地域・保護者との連携<br>(8) 学校における働き方改革 |
|---|

### (1) 「みんな いきいき」を合言葉にした温かい学校・学級づくり

児童・教師・保護者共通のテーマ

<p>【<u>みんな いきいき</u>】京極小</p> <p>【いきいき】学び、【いきいき】過ごし、【いきいき】動く</p>
--

◇温かい学校・学級づくりをすべての教育活動の基盤とする。

◇「いきいき」という言葉で、教育活動に積極的に取り込み、児童、保護者に浸透させる。

◇テーマの実現に向けて道徳教育、特別支援教育の重点を次のようにする。

<『道徳教育』の重点>

「ひとりひとりの良さやちがいを認め合うあたたかい関係づくり」

観 点	実践事項
○今年度の重点 ※道徳科内容項目の標語から、 <u>&lt;個性の伸長&gt;</u> <u>&lt;礼儀&gt;</u> <u>&lt;相互理解・寛容&gt;</u>	◇学級経営の柱としての位置づけ ◇道徳教育推進教師が中心となった計画的な育成 ◇道徳科の授業研究 ◇参観日の道徳授業 ◇いじめアンケート、QUの活用 <u>◇心地よい挨拶を教師から、子どもから</u>

<特別支援教育>

観 点	実践事項
○教育活動の充実	◇ <u>個別の教育支援計画・指導計画に基づいた子に</u> 応じた <u>指導の充実</u> ◇定期的な子ども支援委員会と情報交流会 ◇特別支援教育に関する研修 ◇教師間での日常的な情報交流
○保護者との連携	◇日常的な情報提供 ◇定期的な <u>アセスメント</u> と保護者面談

(2) 具体目標の達成に向けた各部の主体的な取組

知・徳・体の3観点で表された学校教育目標を受け、それらが達成されているかを評価する指標として、具体的な数値目標を次のように設定する。

また、それらを達成するために分掌部会が主体的に手立てを企画・推進する。

※推進にあたっては、「ささえ」との連携を十分に図る

	資質・能力育成につながる具体目標	主な手立て	中心組織
知	全国学力学習状況調査 標準学力検査(CRT)  全学年・全教科「全国平均以上」または「全国平均との差の縮小」	○資質・能力を育てる授業づくり ○TT・習熟度別指導 ○ <b>児童個々の状況に応じた指導</b> ○ICTの有効活用 ○宿題・じぶん学習の継続 ○ <b>時間や文字数を制限した「書く」活動の充実</b> ○キャリア・ノートの活用	まなび
徳	児童アンケート 「京極小学校は、思いやりがあって、協力できる学校です」への肯定的な評価 95%以上	○教師から <b>積極的に</b> 認め・褒め ○「考え話し合う」道徳 ○道徳科の参観日公開と研究授業 ○ <b>児童会主催の「ありがとう運動」「あいさつ運動」</b> ○QU等、実態調査と教育相談	こころ
体	体力テスト 重点項目において、 <b>各自が目標を持ち</b> 全学年「全国平均以上」または「全国平均との差の縮小」	○体育での重点項目継続強化 ○なわとび記録会 ○ジュニアマラソン大会 ○体力測定広場 ○2度の体力テスト	からだ

(3) 教師力・組織力の向上を図る研究・研修

①授業研究の方向 ※教科だけでなく、特別活動等全教育課程における指導に。

ア. 目指す授業

子供に感じさせ、考えさせ、学び合わせる授業

イ. テーマ: ①「学び合いをどうつくるか」

②「ICT機器をどう活用するか」

②教職員の資質・力量の向上

観 点	実践事項
○「支えるプロ」として専門性を高める取組	◇「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた校内研究 ◇ <b>個別最適な学び、協働的な学びの一体化をすすめる</b> ◇新しい研修制度の趣旨に沿った実施 ◇特別支援教育の視点を生かした教育活動の研修 ◇道教委、研修センター等主催の研修会の参加 ◇実践発表会・研究発表会への <b>積極的な</b> 参加
○社会人として、よりよい意識・行動への努力	◇社会的な話題や法規資料を活用した不祥事防止の研修 ◇「社会人として望ましい習慣」の確認 ◇自家用車愛好会の設置等交通違反・事故防止活動 ◇不適切事案防止に関する校内要領等の整備

③校内研修として実施したい主な内容

○児童が見通しをもって取り組む学習 ○教科横断的な学習の充実

○特別支援教育 ○不祥事防止 ○ICT活用

(4) ICTの活用推進

学力向上はもちろんのこと、働き方改革にICTの有効活用が求められている。学校全体のシステムや使用方法などの整備を組織的に進める。

- ①授業改善 ②オンラインを活用した学習指導(不登校対応など) ③学校における働き方改革

(5) 「京極町 児童生徒の英語力向上推進計画」に基づく外国語教育の取組

「京極町における児童生徒の英語力を向上させるための具体的な計画。京極町長及び京極町教育委員会教育長の考えに基づいている。教育委員会が推進し、小中学校・町教研・研究所と連携しながら進める。

【取組内容】

○京極町小中一貫外国語教育カリキュラムの作成

- 外国語教育全体計画
  - ・各学年段階の目標
  - ・重点的に取り扱う事項
  - ・Can-Do リスト形式による学習到達目標(学年段階の概要版) ※重点を整理
  - ・言語活動一覧(学年段階の概要版)
- 単元別 Can-Do リスト
  - ・単元目標
  - ・言語材料
  - ・Can-Do リスト形式の学習到達目標と関連する言語活動。 ※重点を整理

(6) PDCAサイクルの確立とカリキュラムマネジメント

観 点	実践事項
○学校全体のPDCAサイクル確立の取組	◇年2回の自己評価 ◇教育課程に関する自己評価項目の見直しと整備 ◇各行事に関する迅速な自己評価
○各部におけるPDCAサイクル確立の取組	◇各部、知特体における年間教育計画 ◇各部ステップアップ計画 ◇評価項目、評価方法の整理

(7) 異校種・地域・保護者との連携

観 点	実践事項
○異校種・地域・保護者との連携を促進する取組	◇町教研の活動による小中連携から「小中一貫」へ ◇中学校登校日 ◇保小間の連携(新入学児童の情報共有) ◇いつでも参観日の意識 ◇学校評価での意見収集と結果公表 ◇学校だより、学級だより等での情報発信(子どもの様子・活動) ◇地域の教育力の積極的活用(関係機関との連携) ◇コミュニティスクール制度の活用 ◇防災教育の充実と安心・安全メール ◇キャリア・ノートの活用
○地域の教育資源の見直しと積極的な活用	◇地域の資源を生かした体験的な学習の活性化 ◇外部人材・地域人材の活用

(8) 学校における働き方改革

観 点	実践事項
○教職員の健康を保ち、児童との関わりの質を高めるための時間の生みだし	◇変形労働時間制・週休日の振替等制度の活用 ◇校務支援システムの有効活用 ◇学校閉庁日の設定 ◇年次有給休暇年5日以上取得の推奨 ◇効率化への更なる検討(ワークショップ等) ◇定時退勤日の設定(優先順位と時間を意識した業務推進)